

特集

眼内レンズ偏位・脱臼 に対する手術 最新版

●企画にあたって

眼内レンズの普及から時間が経ち、また高齢化に伴って、眼内レンズの位置異常や落下はしばしばみられるようになりました。落下した眼内レンズはおそらく摘出交換、あるいは眼内に置いたままで縫着または固定されることと思いますが、さほど偏位が大きい場合には様子をみることもあります。比較的緊急手術で行われるため、日頃から必要な術前検査、選択術式などをパターン化しておくなくてはなりません。

本特集では、いざ患者様に出会ったときルーティンとして選択できる方法をわかりやすく解説していただきました。

1章では、いろいろな落下レンズの特徴と処理について述べていただきました。2章では眼内レンズ摘出のコツを、硝子体内落下例と後房にとどまっている場合に分けて示されています。眼内レンズの材質によっても摘出の仕方が異なりますので、頭に入れておくと術前に眼内レンズの種類がわからなくてもその場で計画できるでしょう。3章では2次挿入眼内レンズの選択について述べられています。

4～7章においては、その具体的な方法について、ベストで最新の方法を中心に再現可能なように解説をいただきました。4・5章は縫着術です。強膜内固定に適当なスリーピース眼内レンズなどが落下している場合や、切断できるアクリルワンピースが落下している場合には、眼内レンズ切断摘出後、強膜内固定を選択することもあるわけですが、落下している眼内レンズをそのまま眼内固定する際には縫着術のコツを得ておくことが必要です。6・7章は日々進化する強膜内固定の方法とコツを述べていただいています。

明日からの臨床に早速役立ていただければと思います。

寺崎浩子

名古屋大学大学院医学系研究科眼科学・感覚器障害制御学教室